

次の1～4の解答と解説を別紙に書きなさい。また、文字や体裁などに誤りがあれば、すべて正しなさい。

1 次の線の片仮名を漢字に直して書け。

- (1) 交通キセイを行う。
- (2) 違法電波をキセイする。
- (3) キセイ服を買う。
- (4) キセイ概念を打ち破る。
- (5) 基本的人権をホシヨウする。
- (6) 遺族に損害をホシヨウする。
- (7) 彼の身元をホシヨウする。
- (8) 危険をオカす。
- (9) 過ちをオカす。
- (10) 国境をオカす。
- (11) 多くの評論家がススめる映画を見た。
- (12) 祖母に転地療養をススめた。

2 次の(1)～(4)の文には誤って使われている敬語がある。それに線を引き、右横に正しく書き直しましょう。

- (1) 先生の申される意見に賛成です。
- (2) 父はあとから参りますので、どうぞ、お先にいたってください。
- (3) お客様が庭をご覧になられたいそうです。
- (4) 母が先生にお伝えするようにおっしゃいました。

3 次の文を読んで、あとの問いに答えよ。

「ダイジエスト」というもの——多くの雑誌に現われる論文や記事の定期的な抄録は、事柄によってはたいへん役に立ち、事柄によってはただまわがいのもとであり、読み方によっては①このうえもなく②便利なもので、読み方によっては読む人を浅薄にする以外になんの効用もない。抄録雑誌の類は、③それが社会生活、ことに政治にからんでの社会問題を多く扱っている場合には、人を誤らせる危険の④大きいものでしょう。そういう事柄については、人によって意見の違うのが当然です。またことに、国内的な規模でも、国際的な規模でも、二つの勢力が争っているときには、特定の編集者に、いわゆる客観的で公平な立場を、期待することはできません。

(1) 線①～④の品詞名と活用形を答えよ。ただし、活用しない語句は×と答えること。

- ① ( )
  - ② ( )
  - ③ ( )
  - ④ ( )
- (2) 「線」ないと同じ意味・用法のものを次から選び、記号で答えよ。
- ア 答えがわからない。      イ 今日(イ)は宿題がない。
- ウ この本は面白くない。      エ 彼は言葉数が少ない。

8 次の各問いに答えよ。

- (1) 次の説明にあたる文学作品をあとから選び、それぞれ記号で答えよ。
- ① 男性が仮名で書いた最初の文学作品。国司の任を終えた京までの船旅を、女性が記した形をとる。
  - ② 宮廷生活のできごとや、自然界の四季折々の様子を女性らしい完成で文章にまとめた。
- ア 徒然草      イ 枕草子      ウ 源氏物語      エ 土佐日記
- (2) 次の書き下し文を参考にして、返り点をつけよ。
- ・青は之を藍より取りて、藍よりも青し。

〔青 取 之 於 藍、而 青 於 藍。〕

■ 次の文章を読んで、高校入試によく出題されるような読解問題を二つ作り、問題と解答を下段に書きなさい。

【注意】 1 本文に線を引いたり、虫食いにしたりしても構わない。

2 正解が一つに決まるような問題にすること。

3 漢字・文法の問題は作成しないこと。

親は子を育ててきたというけれどそれぞれ勝手に育つ子どもは

親は「育てる」という言い方をすれば、子どもというのは、育てるものではなく、やはり育つものなのだ、と思う。親が関わりをしたら、その育つ過程において、有形無形の影響を与えようとするだろう。

百パーセント親の思っているとおりに育つ子どもなんて、かえって不気味である。それぞれ勝手であるところが、人間としておもしろい。

が、そのことを、あまりにもストレートに言ってしまうと、今ひとつおもしろみに欠ける下の句である。「親は子を育ててきたと言えよ」と

もうこれだけで、充分あとの展開は予想される。「……と言えよ、そうじゃないって言うんだな」と誰だかって予想するだろう。そしてその通りの下の句では、あまりにつまらない。

かといって、予想を裏切るために、主旨を変えるというのも変な話である。しばらく推敲は棚上げ状態だった。

夏、ふるさとに既成したおりのこと。実家の庭では、母が家庭菜園を作っている。きゅうり、ナス、トマト……。母は自分の育てた野菜を食卓にあげては自慢する。たしかに、どの野菜もスーパースーパーのものとは全然違って、ほんとうにおいしかった。毎朝トマトをもぐのが、私の日課となった。次々と熟れてゆくトマトを見てみると、自然の力ですごいなあと思う。台風で倒れてしまったミニトマトまでが、なお実をつけているのである。

そしてその家庭菜園の中で、私は長い間さがしていた上の句を、やっと見つけることができた。

親は子を育ててきたと言えよけれど勝手に赤い畑のトマト

母には、二重に申し訳ない内容となってしまうが、ポンッと飛躍して、楽しい歌になったように思う。

(俄 万智「短歌を読む」より)